

## 《提案型協働事業 検証シート》

協働事業の概要	事業名称	在宅看取り(療養)協働事業「みんなで目指す“園田まるごとケア”」 ～我がまちの看取りを“語ろう” “学ぼう” “つながろう”～		
	団体名	園田地区連携会議 そのだ会	市所管課	包括支援担当
	事業の趣旨・内容	<p>団塊の世代が75歳以上となる2025年に備え、地域包括ケアシステム(最期まで自分らしく暮らすことができる地域づくり)に向けた取組が本市でも進められている。その中で、住み慣れた地域で最期まで暮らしたいという市民の思いと実態にはギャップが生じている。そこで、地域住民、専門職及び行政が考え話し合う機会を通して、在宅看取り(療養)が可能な地域づくりを推進することを目的として啓発及び協議の場を設ける。在宅看取り(療養)というテーマについて、先進事例や取組を共有し、参加者全員で対話を行い、町単位での最期まで自分らしく暮らすことができる地域づくりを目指す。</p>		
	協働における行政の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容についての企画</li> <li>・問い合わせ対応</li> <li>・広報関連(チラシ、パンフレット等の配布)</li> <li>・参加者・団体の巻き込み(地区住民、町会等、専門職、事業者、行政各課)</li> <li>・当日の会場準備、片付け、受付、案内、関係パンフレットの準備</li> <li>・終了後の振り返り</li> </ul>		
協働における市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容についての企画</li> <li>・会場確保</li> <li>・問い合わせ対応</li> <li>・広報関連(チラシ、パンフレット等のデザイン・印刷・配布、SNS等での発信)</li> <li>・参加者・団体の巻き込み(地区住民、町会等、専門職、事業者)</li> <li>・当日の会場準備、片付け、受付、案内、資料の準備・印刷</li> <li>・終了後の振り返り</li> </ul>			

### ■ 市民と行政のこれまでの動き ■

年月	できごと
平成30年6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定書の締結及び補助金交付の決定</li> <li>・キックオフ集会「園田まるごと井戸端会議」(6/30)</li> </ul>
平成30年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民向け「瓦宮まるごと井戸端会議」(9/22)</li> </ul>
平成30年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種向け「園田まるごとケア会議」(10/25)</li> </ul>
平成31年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民・多職種・行政向け「えんつなぎ交流会」(2/23)</li> </ul>

■ 評価会議における意見など ■

1	助成を受けて具体的な動きを行ったことにより、会としてステップアップした。これを機会に定着させてほしい。
2	参加者が、学びを通して自分自身の役割について考え、実際に行動に移すという市民活動レベルの動きにつながるような、具体的なステップが見えると良い。中間支援的なサポートの実施に向けて、引き続き取組を進めてほしい。
3	「まちごとサ高住」などのキャッチフレーズを設けても良い。
4	モデル化していくことについては、そのだ会のあゆみや、実体験などのエピソードを盛り込んだ報告書をしっかりと作れば、まわりに伝わっていくと考える。
5	地域に係る施策を市も重点化しているので、連携を密にしてほしい。地域に入る際は、社会貢献の一つとして行っていることを示した上で入っていくのが良い。

■ 所管課意見 ■

評価会議からの提案事項	意見
<p>地域住民と専門職との間の橋渡しや、銀行や運送業者といった福祉とは関係ないような人々をつなげると取組が広がっていくと考える。地域で活躍している商業者を巻き込んでいき、そこから職種を広げていくと良い。</p> <p>中間支援的な機能を持って、医療や保健から縁遠い人をつなぐことができると良い。</p>	<p>銀行や運送業者といった方々との連携は、新しい視点として認識することができた。これまでは、住民と医療や介護に関係する多職種の繋がりをメインとした取組となっていたが、それに縛られない発想が地域コミュニティの形成や、住民の安心した在宅療養の促進に繋がることも想定しながら、今後の取組をより一層拡充していきたい。</p>

■ 市 総括 ■

<p>在宅看取りが可能な地域づくりを進めるため、地域住民・多職種・行政が共に考え話し合いながら、「顔と役割の見える関係づくり」の構築を進めていただいた。</p> <p>市とともに互いのネットワークを活用し、幅広い主体の巻き込みを図ることができたことをはじめ、市の側も気づきを得られるなど、協働による相乗効果がみられた。</p> <p>今年度は補助期間の最終年度であることから、より効果的な取組とするとともに、持続可能な取組とする点についても、市とともに検討を進めてほしい。</p>
--

以上